

各診療科推奨モデルコース

各診療科おすすめモデルコース一覧
モデルコースの研修順は一例で、実際の研修順は異なる場合があります。

外科専門医プログラム

外科専門医養成コース

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
乳腺・甲状腺外科 (選択1)			消化器外科 (選択2)			救急			内科			呼吸器外科 (選必1)		小児外科 (選必2)		循環器外科 (選必3)		放射線診断又は病理 (内科必修)			麻酔科 (地域ブロック1ヵ月) (選択3)		

(コメント)

初期研修2年間のうちに日本外科学会外科専門医取得のために必要な症例をすべての領域にわたり必要な症例数を経験することを目指す。これにより3年目からサブスペシャリティに専念することが可能となる。そのため外科5科(消化器、循環器、呼吸器、小児、乳腺甲状腺内分泌外科)を各々2-3ヵ月ローテートし、さらに救急だけでなく別個に麻酔科も経験できる。また、将来に備え内科6ヵ月の半分を放射線診断部や病理部で研修することが可能である。

消化器外科プログラム

消化器外科専門医養成コース

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
消化器外科 (選択1)			救急・麻酔			内科						呼吸器外科 (選必1)		小児外科 (選必2)		循環器外科 (選必3)		腺外 (地域ブロック1ヵ月) (選択3)			消外又は院外 (選択2)		

(コメント)

消化器外科は、一般外科から各臓器の専門まで、広い範囲をカバーする領域です。そのため、消化器外科医には一般外科の知識が必要不可欠なものとされます。現在の学会の制度でも、消化器外科領域は外科専門医取得の後に続く、サブスペシャリティと位置付けられており、先ず外科学会の専門医取得が必要とされ、その後で消化器外科専門医の取得になります。当院での研修の特徴は、将来消化器外科医を目指す研修医にとって必要な外科学会専門医取得のための症例経験を早期(2年以内)に積むことにより、3年目以降消化器外科医として専心できるプログラムとなっています。また、腹部臓器として希望者には婦人科や泌尿器科をローテーションすることや、消化器外科の選択として院内もしくは院外(一般外科を含めて)での研修も可能です。

各診療科推奨モデルコース

2011/8/8現在

心臓血管外科プログラム

推奨 1

心臓血管外科専門医養成コース

1 年目									2 年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科			心臓血管外科 (選択 1)			救急			外科 (選択 2)			麻酔科 (選必 3)		小児外科 (選必 2)		外科 (選必 1)		循環器内科 (必修)			外科 (地域ブロック1ヵ月) (選択 3)		

推奨 2

心臓血管外科専門医養成コース

1 年目									2 年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科			心臓血管外科 (選択 1)			救急・麻酔			外科 (選択 2)			精神科 (選必 3)		小児外科 (選必 2)		外科 (選必 1)		循環器内科 (必修)			外科 (地域ブロック1ヵ月) (選択 3)		

(コメント)

前期研修中に外科専門医取得に必要な他科症例数を全て経験でき、3年目から心臓血管外科に専従することが可能となる最短コースである。
必修内科で循環器内科を3ヵ月研修する。
推奨1のプログラムが望ましいが、統合失調症の経験が困難な場合は、推奨2を考慮する。

呼吸器外科プログラム

呼吸器外科専門医養成コース

1 年目									2 年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科			呼吸器外科 (選択 1)			救急			病理又は放射線 (選択 2)			消化器外科 (選必 1)		麻酔科 (選必 3) 週 1 精神科		心臓血管 外科 (選必 2)		呼吸器内科 (内科必修)			外科 (地域ブロック1ヵ月) (選択 3)		

各診療科推奨モデルコース

乳腺・甲状腺・内分泌外科プログラム

乳腺・甲状腺・内分泌外科専門医養成コース

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
乳腺・甲状腺外科 (選択1)			放射線診断又は病理 (選択2)			救急			内科			乳腺・甲状腺外科 (選必1)		小児または小児外科 (選必2)		麻酔科 (選必3)		放射線診断又は病理 (内科必修)			外科 (地域ブロック1ヵ月) (選択3)		

(コメント)

乳腺専門医、内分泌・甲状腺外科専門医を目指すプログラムである。院内では専門である乳腺甲状腺内分泌外科で研修し、さらに将来必要となる放射線診断部や病理で研修することを推奨する。

これは必修の内科6か月のうち半分をこの放射線、病理にあてることが可能である。

院外研修では広く一般外科の診療をおこなっているところで外科専門医に必要な症例の経験を目指す。

形成外科プログラム

形成外科専門医養成コース

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科 (院内)						小児科 (選必2)		選択3 (選必1の振替)		麻酔科 (選必3)		外科系 (地域ブロック1ヵ月) (選択3)			救急			形成外科 (選択1・2)					

(コメント)

早期に内科、小児科研修を行い、全身的に患者を診ることを学ぶ。

麻酔、救急、外科については順は問わないが研修し基本を学ぶことを推奨する。

形成外科研修は基礎から開始し、学会への入会を勧める。

各診療科推奨モデルコース

救急プログラム

救急・集中治療専門医養成コース

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科 (院内)			外科 (院内・選択1)			救急(院内・院外) (必修)			救急(院内・院外) (選択2)			精神科 (院外) (選必3)		産科 (選必1)		選択3		小児外科(院内) (選必2)			内科 (院内)		

← 地域医療(週1) →

(コメント)

1年目に必修と選択で6か月救急を研修する。
希望により院内6か月、院内3か月+院外3か月どちらでも可能。内科・外科に関しても救急関連の診療科を推奨する。
選択必修2の小児外科は小児内科にも変更可。

脳神経外科プログラム

脳神経外科専門医養成コース

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
脳神経外科 (選択1)			内科 (院外)			外科 (選必1)		麻酔科 (院外可) (選必3)		小児外科 (院外可) (選必2)		救急 (脳外救急含む) (院外可)			脳神経外科 (院外可) (選択2)			脳神経外科 (地域ブロック1ヵ月) (選択3)			病理又は放射線 (必修内科)		

(コメント)

将来脳神経外科を目指す(あるいは検討している)研修医が、重点的に脳神経外科を研修するためのコースです。
研修医1年目の時期に院内で脳神経外科を研修し、脳神経外科としての基礎を身につけるとともに、2年目で院内・院外で脳神経外科研修を行います。
必修内科は、一般内科あるいは循環器、神経内科を院外で、院内では振替でIVR研修を含む放射線科研修、病理診断などを研修(院内内科に振り替え可)することを推奨します。
選択必修2の小児外科は小児内科にも変更可能です。
モデルコースの研修順は一例で、実際の研修順は異なる場合があります。

各診療科推奨モデルコース

2011/8/8現在

整形外科プログラム その1

整形外科専門医養成コース

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
整形外科 他 (選択1)			内科			救急			内科			小児科 他 (選必2)		麻酔科 他 (選必3)		整形 他 (選必1)		整形外科 他 (選択2・3)					
												← 地域医療 (週1) →											

(コメント)

1年目は整形外科治療に必要な基本的な全身管理を、整形外科、内科、救急研修を通じて習得する。
 (内科研修に際しては、神経内科、膠原病リウマチアレルギー内科、循環器内科、内分泌代謝内科などが関連性が高いと思われる。)
 2年目は選択必修(特に小児科、麻酔科など)を研修し、後半より整形外科が選択可能な研修を通じて整形外科医としての基礎を習得する。
 (外科研修を行うのであれば、呼吸器外科、消化器外科などが関連性が高いと思われる。)
 地域医療に関しては選択必修時において週1回の研修を行う。
 2年目の8月より整形外科を連続して行い後期研修プログラムへつなぐことが可能。

整形外科プログラム その2

整形外科専門医養成コース

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
整形外科 他 (選択1)			内科			救急			内科			小児科 他 (選必2)		麻酔科 他 (選必3)		整形 他 (選必1)		整形外科 他 (地域ブロック1ヵ月) (選択3)			整形外科 他 (選択2)		

(コメント)

1年目は整形外科治療に必要な基本的な全身管理を、整形外科、内科、救急研修を通じて習得する。
 (内科研修に際しては、神経内科、膠原病リウマチアレルギー内科、循環器内科、内分泌代謝内科などが関連性が高いと思われる。)
 2年目は選択必修(特に小児科、麻酔科など)を研修し、後半より整形外科が選択可能な研修を通じて整形外科医としての基礎を習得する。
 (外科研修を行うのであれば、呼吸器外科、消化器外科などが関連性が高いと思われる。)
 地域医療に関しては選択3において1か月のブロック研修を行う。
 2年目の9月より整形外科を連続して行い後期研修プログラムへつなぐことが可能。(研修順は一例で、実際の研修順は異なる場合があります。)

各診療科推奨モデルコース

泌尿器科プログラム その1

泌尿器科専門医養成コース

1年目												2年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
泌尿器科 (選択1)			救急 (麻酔1.5ヵ月)			内科						泌尿器科 (選必3)			消化器外科 (選必1)			小児外科 (選必2)			泌尿器科 (選択2・3)					
												← 地域医療 (週1) →														

(コメント)
 選択必修1は消化器外科を推奨。選択必修2は小児外科を推奨。
 救急で1.5ヵ月麻酔科研修ができない場合は、2年目で麻酔科研修を推奨。
 3年目(S1)以降は泌尿器科専門医取得を目標として、筑波大学附属病院・腎泌尿器外科(含:基幹教育施設)研修プログラム(筑波大学附属病院ホームページを参照)と筑波大学附属病院腎泌尿器外科・男性機能科レジデント・マニュアルに沿った後期研修を行う。

泌尿器科プログラム その2

泌尿器科専門医養成コース

1年目												2年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
泌尿器科 (選択1)			救急 (麻酔1.5ヵ月)			内科						泌尿器科 (選必3)			麻酔科 (選択2) (選必1の振替)			小児外科 (選必2)			消化器外科 (選必1)			泌尿器科 (選択3)		
												← 地域医療 (週1) →														

(コメント)
 選択必修1は消化器外科を推奨。選択必修2は小児外科を推奨。
 2年目の麻酔科は、救急で1.5ヵ月の麻酔科で代用可。
 3年目(S1)以降は泌尿器科専門医取得を目標として、筑波大学附属病院・腎泌尿器外科(含:基幹教育施設)研修プログラム(筑波大学附属病院ホームページを参照)と筑波大学附属病院腎泌尿器外科・男性機能科レジデント・マニュアルに沿った後期研修を行う。

各診療科推奨モデルコース

2011/8/8現在

麻酔科プログラム その1

麻酔科専門医養成コース

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科						救急 (院内)			麻酔科 (院内) (選択1)			麻酔科 (選必3)		外科 (選必1)		小児科 (選必2)		麻酔科 (地域ブロック1ヵ月) (選択3)			麻酔科 (院内) (選択2)		

(コメント)

急性期医療に携わる医師にとって、全身管理学が学べる有効なプログラムです。
 充実の麻酔科研修。院内救急3か月は麻酔科2か月、救急1か月とすることも可能。
 2年目の院外麻酔科の選択病院は、筑波メディカルセンター病院、日製日立総合病院、水戸済生会病院、県立こども病院、筑波学園病院から選択。
 内科は基本的に循環器内科、放射線診断を選択するのが望ましい。外科、小児科は自由に選択。
 地域医療研修は週1回に振り分けても可。

麻酔科プログラム その2

麻酔科・ペインクリニック専門医養成コース

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科						救急 (院内)			麻酔科 (院内) (選択1)			麻酔科 (選必3)		外科 (選必1)		小児科 (選必2)		麻酔科 (地域ブロック1ヵ月) (選択3)			麻酔科 (院外) (選択2)		

(コメント)

ペインクリニックに興味の高い人にお勧めします。
 院内救急3か月は麻酔科2か月、救急1か月とすることも可能です。
 2年目の院外麻酔科の選択病院は、筑波メディカルセンター病院、日製日立総合病院、水戸済生会病院、県立こども病院、筑波学園病院から選択。なかでも、ペインクリニックに重点を置く筑波学園病院で研修が可能です。
 地域医療研修は週1回に振り分けても可。

各診療科推奨モデルコース

2011/8/8現在

麻酔科プログラム その3

麻酔科・救急専門医養成コース

1年目									2年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科						救急 (院内)			麻酔科 (院内) (選択1)			麻酔科 (選必3)		外科 (選必1)		小児科 (選必2)		麻酔科 (地域ブロック1ヵ月) (選択3)			救急 (院外・取手協同) (選択2)		

(コメント)

急性期医療に携わる医師にとって、全身管理学が学べる有効なプログラムです。
 充実の救急研修。将来、何科に進むのにも有効です。
 2年目の院外麻酔科の選択病院は、筑波メディカルセンター病院、日製日立総合病院、水戸済生会病院、県立こども病院、筑波学園病院から選択。
 院外救急(取手協同病院)で麻酔科を研修することも可能です。
 地域医療研修は週1回に振り分け可。

耳鼻咽喉科プログラム

耳鼻咽喉科専門医養成コース

1年目									2年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科						耳鼻咽喉科 (選択1)			救急 (院内)			耳鼻咽喉科 (選必1)		小児外科 (選必2)		麻酔科 (選必3)		耳鼻咽喉科 (選択2・3)					
												← 地域医療 (週1) →											

(コメント)

耳鼻咽喉科を目指す研修医に対するコース。集中的に耳鼻咽喉科を組み入れ、耳鼻咽喉科領域の基盤的な知識、能力を養う。
 内科、救急、麻酔科を選択することで全身管理、救急患者の初期対応を学ぶ。
 耳鼻咽喉科では小児患者も多く扱うことから、小児科、小児外科の研修も小児患者管理に有要である。

各診療科推奨モデルコース

2011/8/8現在

眼科プログラム

眼科専門医養成コース

1年目												2年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
内科						眼科 (選択1)			救急			形成外科OR 泌尿器科 (選必1)			小児 (選必2)			眼科 (選必3)			眼科 (選択2・3)					

← 地域医療 (週1) →

産科プログラム

産婦人科養成コース

1年目												2年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
内科6ヶ月						救急/麻酔			選択1 産科 (院内)			選択必修2 (小児科院内)			選択必修1 (産婦人科院内)			選択必修3 (産婦人科院内)			選択2 産科 (院内)			選択3 産科 (院内)		

(コメント)

将来産科医を希望される方にお勧めするモデルコースです。選択1～3はすべて産科を院内(総合周産期母子医療センター)で研修します。当院は旧国立大学で全国一の分娩数を誇ります。選択必修1、3の産婦人科は原則としてどちらも院内で婦人科を研修します。たとえ産科医であっても婦人科診療の知識や経験はたいへん重要です。選択必修2の小児科は原則として院内(総合周産期母子医療センター)NICUに勤務します。これらの研修を通してバランスのとれた産科医となる基礎を築くことができます。

各診療科推奨モデルコース

2011/8/8現在

婦人科プログラム

産婦人科養成コース

1年目									2年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科6ヶ月						救急/麻酔			選択1 婦人科（院内）			選択必修2 （小児科院内）		選択必修1 （産婦人科院内）		選択必修3 （産婦人科院内）		選択2 婦人科（院内）			選択3 婦人科（院内）		

（コメント）

将来婦人科医、特に婦人科腫瘍を専門とする医師となることを希望される方にお勧めするモデルコースです。選択1～3はすべて院内で婦人科を研修します。当院婦人科は全国有数の婦人科腫瘍症例の治療を行っております。選択必修1、3の産婦人科は原則として参加を院内（総合周産期母子医療センター）で研修します。たとえ婦人科医であっても産科診療の知識や経験はたいへん重要です。選択必修2の小児科は原則として院内（総合周産期母子医療センター）NICUに勤務します。これらの研修を通して、バランスのとれた婦人科医となる基礎を築くことができます。

産婦人科プログラム

産婦人科養成コース

1年目									2年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科6ヶ月						救急/麻酔			選択1 婦人科（院内）			選択必修1 （産婦人科院内）		選択必修2 （小児科院内）		選択必修3 （産婦人科院内）		選択2 産科（院内）			選択3 産婦人科 （筑波学園病院）		

（コメント）

将来産婦人科を希望される方にお勧めするモデルコースです。産婦人科の専門領域は主に、産科、婦人科腫瘍、生殖医療です。このモデルコースはその3領域をバランスよく研修します。選択1および選択必修1はどちらも院内で婦人科を研修します。選択2および選択必修3はどちらも産科を院内（総合周産期母子医療センター）で研修します。選択3として筑波学園病院で産婦人科研修を行います。筑波学園病院産婦人科は茨城県トップの生殖医療施設ですから、最先端の生殖医療を経験することができます。選択必修2の小児科は原則として院内（総合周産期母子医療センター）NICUに勤務します。これらの研修を通して、バランスのとれた産婦人科医となる基礎を築くことができます。

各診療科推奨モデルコース

2011/8/8現在

水戸地域医療教育センターコース

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
総合診療科（内科） 筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター						外科 筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター			救急 筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター			選必2 小児科		選必3 筑波大学		選択1 筑波大学		選択2 筑波大学			選択3 筑波大学		
												← 地域医療（週1） →											

〔コメント〕

コメント:

水戸協同病院内に設置された筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターに於いて、日常経験することの多い疾患の初療から退院までを習得し、ジェネラリストとしての基本を身につけることを主眼としたコースです。診療科の枠にとらわれないカンファランスと、教員＋チーフレジデントとのチーム医療が特徴です。

地域医療研修は選択必修2, 3, 選択1の期間に週1回おこないます。